





事業実施報告書

- I 「スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの価値を伝える学校」
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 木津川市立山城中学校 】

1 実践テーマ	【 I・III 】
2 実施対象者	木津川市立山城中学校生徒 3年生（男子37名、女子52名）計89名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（車椅子バスケット体験学習） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	多様なスポーツを体験し親しむことで、生徒一人ひとりの「スポーツ志向」の高まりを期待するとともに、自他を尊重し社会に貢献しようとする心や他者への思いやりを含む「ボランティアマインド」を養い、共生社会を築くための「障害者理解」を身につける。
5 取組内容	1 障害者スポーツについての理解を深める取組（12月14日） 障害者理解を深め、自ら社会に貢献しようとする心や他者への思いやりなどの態度を培うことを目指し、元アテネパラリンピック日本代表選手、東京パラリンピック日本代表候補選手等を招き、「車椅子バスケット」体験学習を実施する。
	   

	<p>2 「スポーツ志向の高まりを期待する取組」（3学期） オリンピック・パラリンピック代表選手等のトップアスリートを講師に招いて講演会を開催し、世界を舞台に活躍するために必要な考え方や講堂、夢を追い続けることの価値等を学ぶ。</p> <p>3 全校生徒、保護者及び地域住民に啓発する取組 障害者スポーツへの理解とパラリンピックの価値を啓発するため、「車椅子バスケット」開催に合わせてクリアファイルを作成し、全校生徒、参加保護者、地域住民、学校関係者等に配布する。また、学校HPや学校だより、学年学級通信等で取組内容と趣旨の周知を図る。</p>
6 主な成果	障害者スポーツの世界を知り、パラリンピックの価値を学習して、共生社会の実現に向けての決意を新たにされた様子であった。 実際に元アテネパラリンピック日本代表選手、東京パラリンピック日本代表候補選手等パラリンピックに出場した選手を目の当たりにし、その体験を聞くことを通じて、目標を持って行動することの重要性を再認識した様子であった。 障害者となることになったいきさつや生い立ちを、体験をとおして語られ、障害者理解や共生社会の実現に向けての決意について、深く心に刻まれた様子であった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習をより効果的に行えるよう、京都府障害者スポーツセンターと連携し、競技用車椅子を借り受け、「車椅子バスケット」の特徴や特性、技能について深く学べるように配慮した。 ・クリアファイル作成に際しては、「パラリンピックの4つの価値」を明記し、周知に役立てた。 ・開催案内や当日の様子について学校だより、学年学級通信を活用し周知を図った。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・競技用車椅子の借用に際しては、事前に予定していた大学や府立高等学校との調整に難航した。 ・人権教育や道徳教育をはじめ教育活動全般において、継続した取組となるよう、より効果的な教育課程の編成に向け、年間指導計画の見直しを含め考慮する必要がある。 ・講演や体験学習の開催については、周知を徹底し、一人でも多くの保護者・地域住民の参加が得られるよう啓発に工夫する必要がある。
9 来年度以降の実施予定	「車椅子バスケット」体験学習については、来年度以降も継続して実施する予定である。